

第883号

令和3年12月6日

佐渡市立金井小学校

佐渡ことば・こころの教室

教室だより

〒952-1209

佐渡市千種丙178番地1

TEL:0259(63)4156(直)

4115(代)

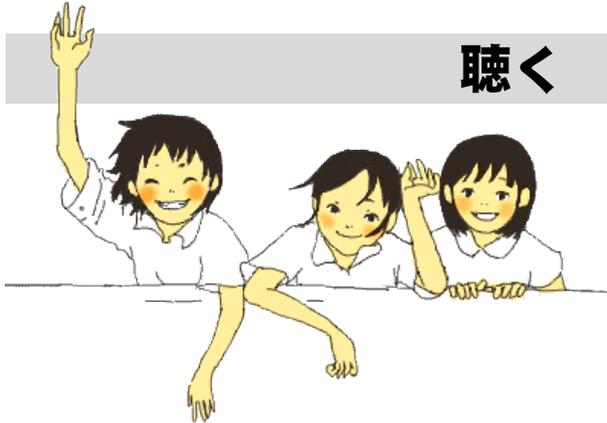
FAX:0259(63)4117

E-mail:skotoba@sado.ed.jp

HP:<http://kanai-es.sado.ed.jp>

(教室だよりのバックナンバーも掲載中)

聴く



佐渡市立両津中学校
校長 嶋見 靖之

何名かの子どもが「話きいてー」と突然私のところへ来ました。驚きましたが、まずは聴かないと始まらないと思い部屋に入れて話を聴くことにしました。「ひとりずつ」と伝えたら、子どもは自分たちで整然と順番を決めました。そして最初の子どもが話を始めました。丁寧な言葉遣いでした。限られた時間だったので全員の話は聴けませんでした。「今日はここまで。またおいで。」と伝えると、子どもたちは「はい」とさわやかな返事をして退室していきました。

子どもの言動には何か事情や気持ちがあります。それらを聴かず、「あなたが悪い」などと大人が決めてかかったら、子どもは「どうせ」と諦めてしまうでしょう。「話きいて」と言えずにいる子どももたくさんいます。話ができる大人がその子に一人でもいること。子どもが話すきっかけを見付けていくこと。子どもの話をとことん聴くこと。聴くことは子どもの前向きな気持ちにつながると信じています。

こども心

『親思う 心にまさる親心』

今日のおとずれ 何と聞くらん』

これは、29歳で処刑された吉田松陰の辞世の句。

『子が親を思う以上に、親は子を大切に思うものである。処刑される自分のこのような状況を両親が聞いて、両親はどんな思いだろうか』(意識)

時として、この句を疑問に思うことがある。こどもが親を思う気持ちだって結構な強さで強いと思うからである。ある生徒から、祖母からもらったお小遣い1000円で母親には300円以上の高価なアイス、自分には100円位のアイスを買ったと聞いた。母親が日々大変そうで少しでも美味しいものを食べてほしいと思ったそうである。何と優しい気持ちだろう。自分が食べたい気持ちよりも母親に食べてほしい気持ちが強かったのだろう。

日々大変なことが起きる世の中、
変わらずに大切なのは『こころ』だと思う。

『情のあるお子さんにお育てですね』

といつかおうちの方々にお伝えしたい。

(萩野)



親の会コーナー



第2回学習会報告

「多様性を生かす学びの場づくり～こどもの哲学の挑戦～」

11月13日、新潟大学佐渡自然共生科学センター准教授の**豊田 光世**様から、上記の演題で、ご講演と **p4c** 体験のご指導をいただきました。今回は、学習会初のオンラインでの実施となりました。

p4c は、自分の話を温かく聞いてくれる安心できる集団作りと対話による相互理解。話せなかった子は話せるように。話しすぎていた子は聞けるように。お互いの違いを尊重しながら話し合う素敵な学びの場の提供でした。参加者からは「自分の子の学校でも取り入れてほしい」との声が聞かれました。

***豊田先生のご著書を購入しました。待合室にありますのでご覧下さい。**

参加者の感想より (一部抜粋)

- 実際に体験できたことがよかったです。自分も話すのがなかなか得意じゃないので話すときはドキドキしました。先生のお話を思い出し、うまくしゃべれなくても大丈夫という気持ちで、今はすっきりとしています。こういう活動を自分も子どものころからやっていたらよかったなど、すごく思いました。
- いろんな考えを聞けてためになりました。
- 自分の考えを述べてみたい気持ちになりました。



来年度の親の会役員募集中!!

来年度の親の会役員をやってみたいと思う方は、お声掛けください。主に、親の会学習会の立案、運営をしています。そして、何よりも、親御さん同士の輪を広げる貴重な場となっています。(今年は感染症対策のため、役員同士はラインでのやり取りが多かったです。) **同じ悩みを一緒に考えてくれるママ友・パパ友がここにあります。ぜひ一緒に!!**

先生方ともたくさんお話ができるのも楽しみの一つですよ～!

役員



ことば・こころ応援団



今回のことば・こころ応援団は、村田 圭様です。村田様は、佐渡市子ども若者相談センター、新潟県新星学園、佐渡保育専門学校にて、相談業務や人材育成に携わっておられます。その傍ら、保護者・先生向け研修会の講師として、子どもたちの育ちを後方から支える活動にも取り組まれています。そんな村田様が「今」思うことをお聞きしました。



やっとわかったことがあるんです

佐渡インクルーシブ教育プロジェクト

代表 村田 圭

今さらというか、ようやくなんです。「ああ、そうだな」と確信をもったことがあります。それは「子どもは大人の思うように変えたり育てたりすることはできない。だけど子ども自身で少しずつ変わり成長していく」ということです。私たちができることは、その子にとってよりよい環境を作っていくこと、せめて悪くしないことくらいかなと思います。最悪なのは、善意と熱意で、その子を変えようと無理をさせたり、大人ががんばりすぎたりしてしまうことです。

かつての私は「自分の力でこの子をなんとかしてみせる! この指導法で子どもは変えられる!」なんていう、実に強欲な人間でした。そこから、たくさん子どもたち、保護者の皆様、先生方との出会いを通して、やっとのことで毒が抜けたおじさんになれ。そんな私は、もうすぐ53歳です(^_^)v

